

2019
連合中央女性
集会に参加!

「真の多様性」が根付く 取組みを進めよう! 職場・社会の実現に向け、

10月18日によみうりホールで、「『連合第4次男女平等参画推進計画』の達成に向けて、残り1年ラストスパートをかけよう!」をテーマに「2019連合中央女性集会」が開催されました。生保労連からは各組合役員と本部役職員あわせて17名が参加しました。

冒頭挨拶で、相原 連合事務局長は、「連合結成30年を迎え、中央女性集会も1990年の第1回から数えてちょうど30年目を迎えた。2020～2021年度運動方針の重点分野に掲げた「男女平等をはじめとして、一人ひとりが尊重された『真の多様性』が根付く職場・社会の実現」に向けて、一体となって取組みを進めたい」と決意を述べました。



▲参加者のみなさん

続いて、井上 連合総合政策推進局総局長より、男女平等参画をめぐる情勢と課題および連合「第4次男女平等参画推進計画」等に基づき基調提起が行われました。

次に、大沢真知子 日本女子大学教授より「なぜ女性管理職は少ないのか」と題する基調講演が行われました。その中で、女性管理職をめぐる状況や男女問わず昇進意



▲講演する大沢教授

欲を高めるためのポイント等について、外国の事例なども交えながらアドバイスいただきました。

その後、「私らしく、あなたらしく、全員活躍!」をテーマに、相原 連合事務局長、岡本 直美 連合顧問、西田 一美 連合奈良会長、菊池 るみ 全自交労連・東洋交通労働組合執行委員長らによるパネルディスカッションが行われました。それぞれの経験談等を交えながら、男女平等だけでなく誰もが活躍できる職場・社会の実現に向けて取組み報告や意見交換が行われました。



▲パネルディスカッションの様子

最後に「私たち一人ひとりが主体となり、『2019連合中央女性集会』で得た成果を持ち帰り、希望あふれる未来に向かって挑戦していきましょう!」との集会アピールが採択され、閉会しました。